



2001年12月入職

わたなべひろやす
渡辺浩康

この仕事の奥深さに、魅せられています

「私も選ばれたい」と、まわりに思ってもらいたい

10年経験を積んでも、まだまだ知らないことがあるのだな。今回の研修を受けているとき、この仕事の奥深さを再確認しました。たとえばウイルスへの対応にしても、過去に学んではいるのですが、時代の移り変わりと共に手法が変わっています。他の事柄に関しても、細かい部分を誤認していたものがいくつかありました。しかしそれは逆に捉えると、これから伸びていく余白があるということ。今は「もっとこの仕事を追求していきたい」というモチベーションが再び湧き上がっています。

現在勤務している施設は約100名ものスタッフが在籍していて、休憩中に「エキスパートケアワーカーの研修ではどういったことを学んだのですか？」という質問を受けることも少なくありません。そういったときはもちろん内容を伝えていますが、私はどちらかと言うと行動でまわりに示していくタイプ。その姿を見て「私もエキスパートケアワーカーになりたい」と思ってくれるスタッフが一人でも増えてくれればうれしいですね。絶対に本人のためになりますから。

何パターンもある対応方法のなかから、どれを選ぶか



知識が増えることは、現場での適切に対応するための選択肢の幅につながっていきます。この仕事は、画一的なルールを当てはめながら進めていくものではなく、常に対応方法が何パターンもあります。たとえば、ずっと経管栄養の処置をとっていた入居者さまがいらっしゃったのですが、言動はしっかりとされている方でしたので、「口から食事を採れるのではないか」と徐々に感じるようになりました。そこから飲み込みのテストを行い、やがては3度の食事を口から食べられるようになりました。普通に対応していたのなら、おそらくそのまま経管栄養が続いていたでしょう。言わばこの仕事は、自分次第で状況を変えていけるということ。これからも状況にあわせたベストな対応方法を選択できるように、その裏付けとなる知識を身に付け、技術をさらに磨いていきたいと思っています。



思いやりの心を忘れず
利用者さまに安心して
頂けるような
ケアワーカーになりたいです。
渡辺浩康